

地域医療の連携に関する アンケート調査集計結果

(市内内科診療所対象)

生駒市病院事業推進委員会
医療連携専門部会

平成26年4月25日(金)

調査概要

□ 調査目的

- このアンケート調査は、平成27年6月の生駒市立病院の開院を機に、本市におけるよりよき地域医療の連携体制の新たな構築に向け、市内の医科診療所の皆様の現況やご意見をお伺いし、医療連携専門部会の検討の基礎資料として活用させていただくことで、今後の本市医療行政に反映させていただくことを目的に実施したものです。

調査概要

□ 調査の実施方法

■調査地域：生駒市全域

■調査対象：生駒市内の医科診療所86院（介護施設等内に設置されている診療所は除く。）

■実施方法：郵送による配布と回収

（平成26年3月7日（金）発送 平成26年3月31日（月）返送期限）

□ 回収状況

■回収数：46部

■回収率：53.5%

調査概要

□ 調査項目

全26問(選択式を基本に、一部記述式)

- ■回答者の属性に関する調査
- 問1.標榜診療科名 問2.所在地(小学校区)
- ■紹介・逆紹介状況に関する調査
- 問3.紹介・逆紹介の有無 問4.照会先の選択基準 問5.照会先
- ■かかりつけ医に関する調査
- 問6.(1)提供している医療サービス (2)提供できていない医療サービス (3)提供できない理由
- ■在宅医療に関する調査
- 問7.(1)訪問診療・往診の実施の有無(2)訪問診療・往診を行っていない理由
- (3)訪問診療・往診の依頼元 (4)在宅患者増悪時の受け入れ病院確保の有無
- ■市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査
- 問8.(1)～(13) 以下の取組みへの参加・利用の意向確認
- 救急体制、医療講演会、地域連携パスなど診療所との連携、在宅患者の病床確保、開放型病
- 床、医療教育プログラム、合同症例検討会等、医療機器・血液検査・手術室のオープン利用、
- 患者情報のデータ化・共有化
- ■医療情報の電子化の状況に関する調査
- 問9.導入している医療情報の電子化のシステム

調査概要

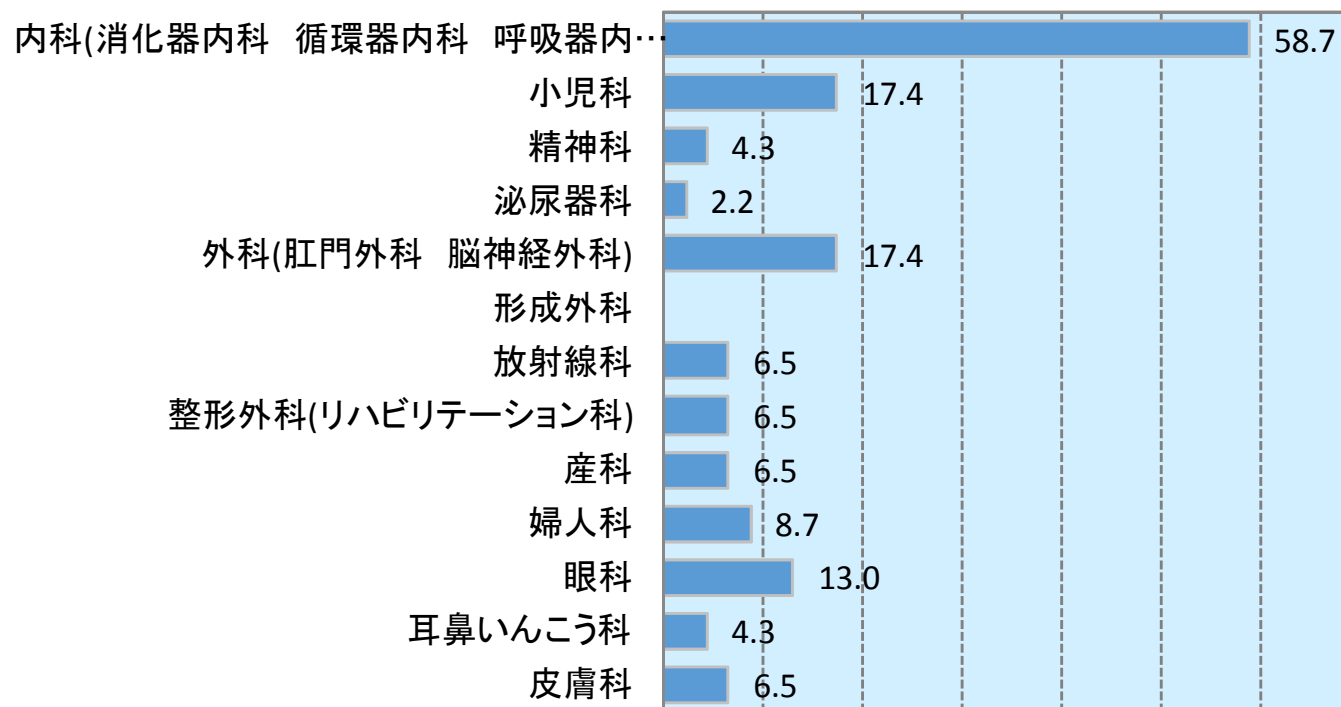
□ 集計・表記方法

- 集計結果は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを百分率(%)で表示しています。
- 未記入、不明及び指定された選択数以上の回答は、その設問に関して全て未記入扱いとしています。
- 選択肢から1つだけ選んで回答する設問では四捨五入の誤差により、構成比の和が100.0%にならないことがあります。
- 本文や図表中の選択肢の文言は、調査票の実際の文言を短縮しているものがあります。

アンケート集計結果 【回答者の属性に関する調査】

【問1 診療科目】

貴院の診療科目についてお聞かせください。(複数回答)

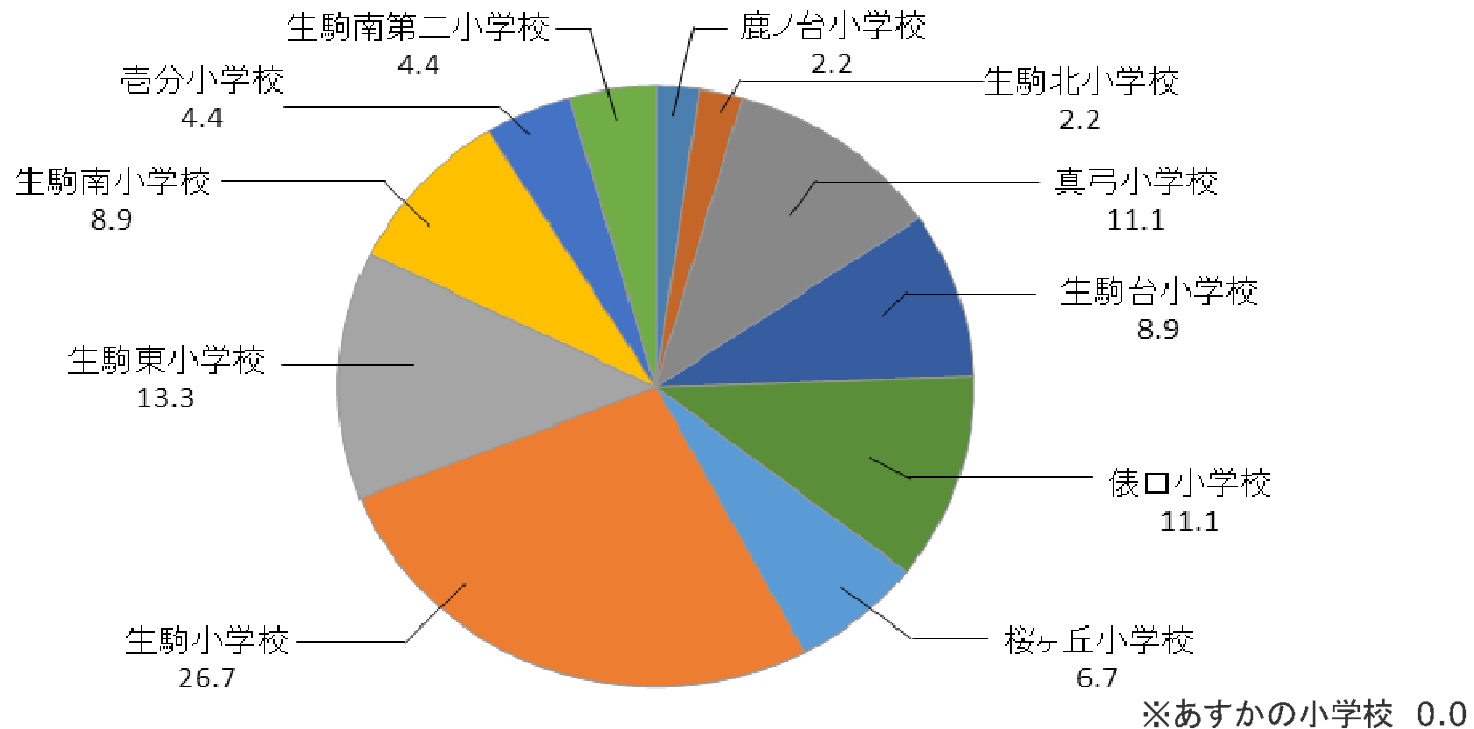


標榜数の多い診療科は、
1位が内科(27医院)
2位が小児科及び外科(各8医院)
3位が眼科(6医院)などであった。

アンケート集計結果 【回答者の属性に関する調査】

【問2 所在小学校区】

貴院の所在する小学校区はどちらですか。

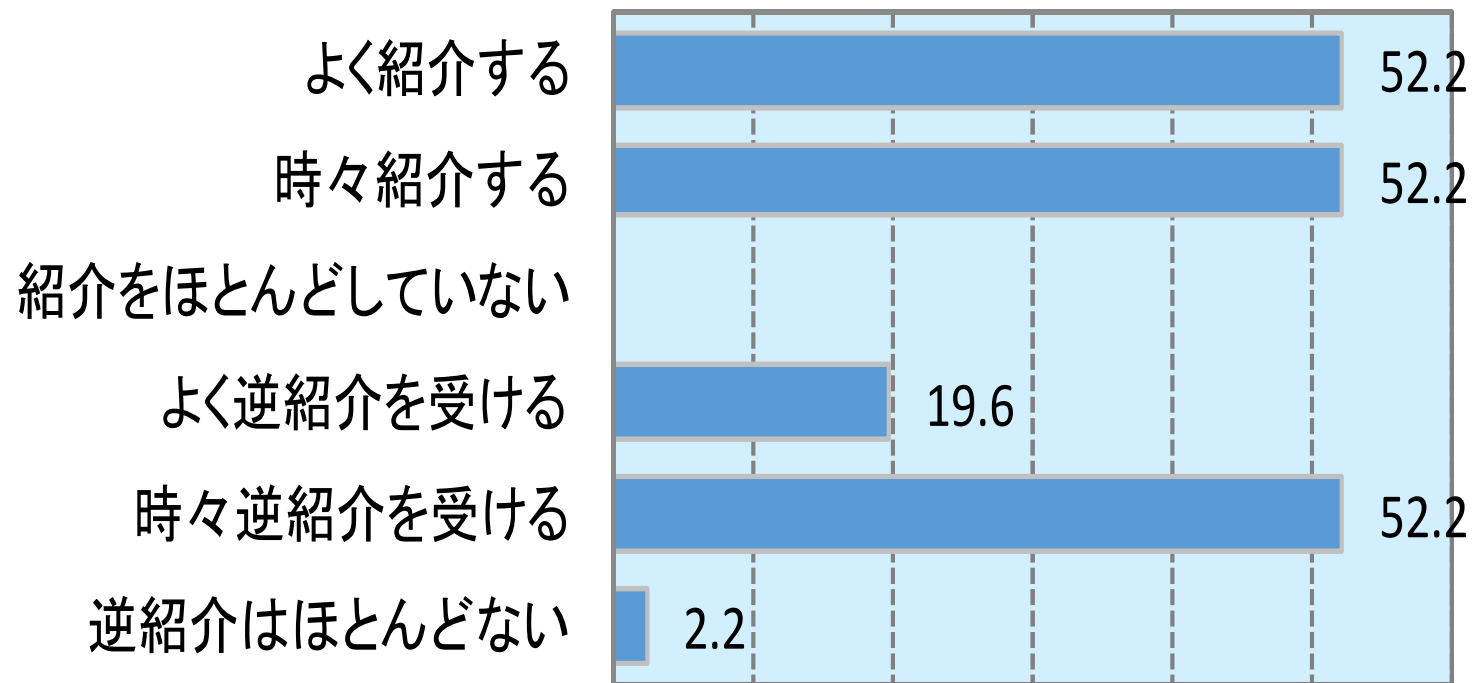


医科診療所が多い小学校区は
1位が生駒小学校区(12医院)
2位が生駒東小学校区(6医院)
3位が真弓小学校区及び俵口小学校区(各5医院)であった。

アンケート集計結果 【紹介・逆紹介に関する調査】

【問3 紹介・逆紹介の状況】

他の医療機関との連携についてお聞かせください。(複数回答)

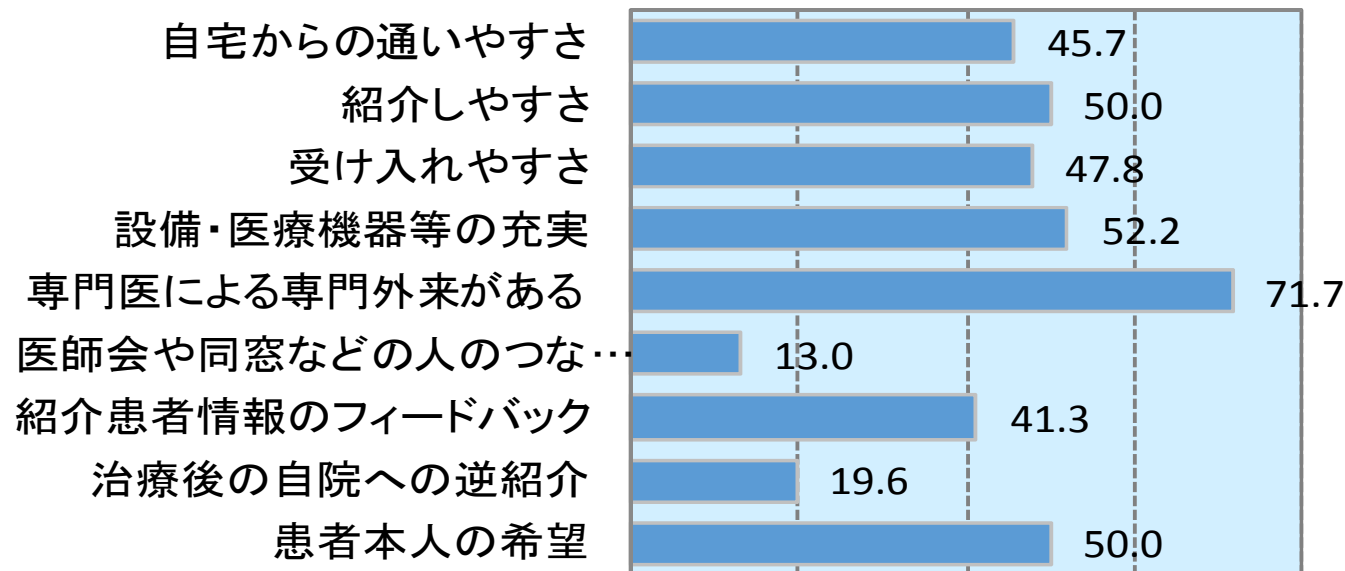


紹介逆紹介では、「よく紹介・時々紹介する」を併せて100% 紹介しない診療所は無し。「よく逆紹介・時々逆紹介を受ける」も併せて71.8%。平成18年のアンケート(よく紹介・時々紹介は95.8%、よく逆紹介・時々逆紹介は50.0%)と比して、「紹介」はほぼ同様、「逆紹介」は若干高くなっている。

アンケート集計結果 【紹介・逆紹介に関する調査】

【問4 紹介先の選択基準】

患者に他の医療機関を紹介する際、特に重視する選択基準についてお聞かせください。(複数回答)



紹介先の選択基準は、

①「専門医による専門外来がある」(71.7%)

②「設備医療機器等の充実」(52.2%)

③「紹介しやすさ」と「患者本人の希望」(50.0%)

・前回と比べて「専門医による専門外来がある」が最も高く、2位の「紹介しやすさ」に大きく差をつけている。

(H18)

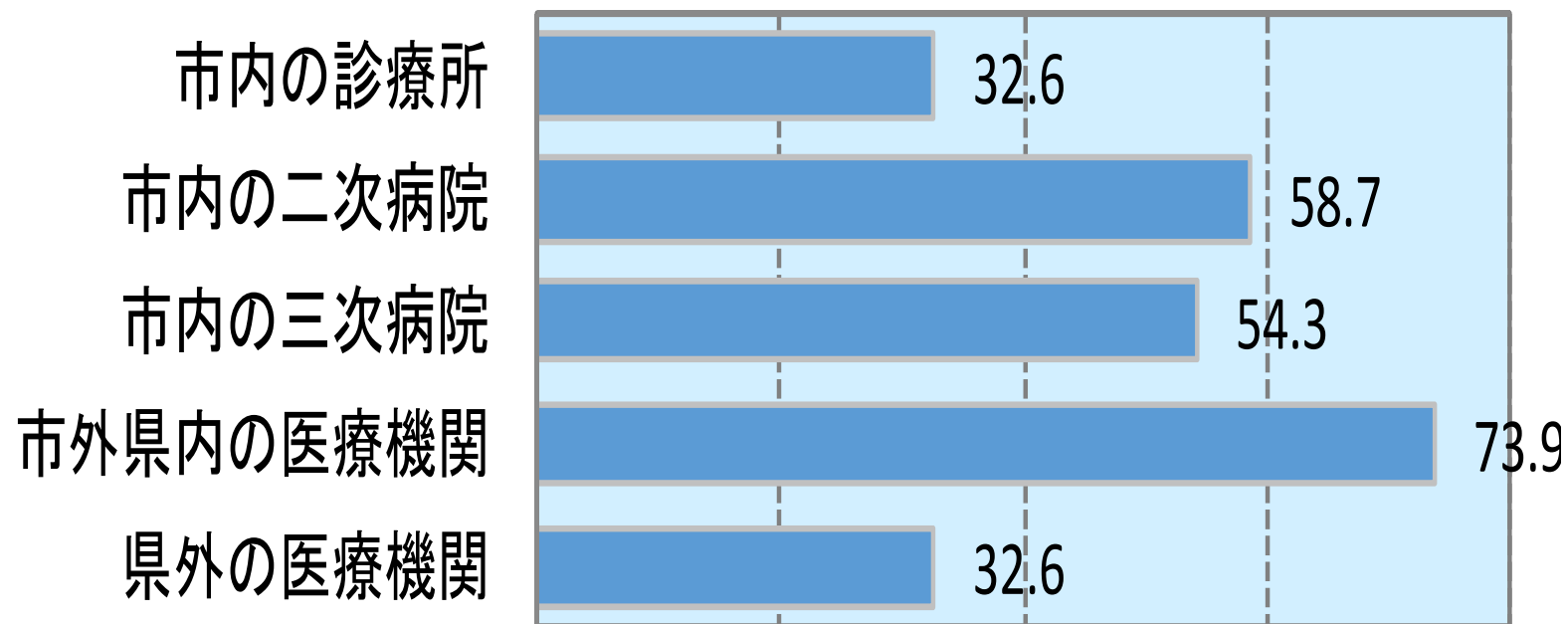
①紹介しやすさ(54.2%)

②専門医による専門外来(52.1%)③設備機器の充実(50.0%)

アンケート集計結果 【紹介・逆紹介に関する調査】

【問5 紹介先の医療機関】

よく紹介する医療機関をお聞かせください。(複数回答)

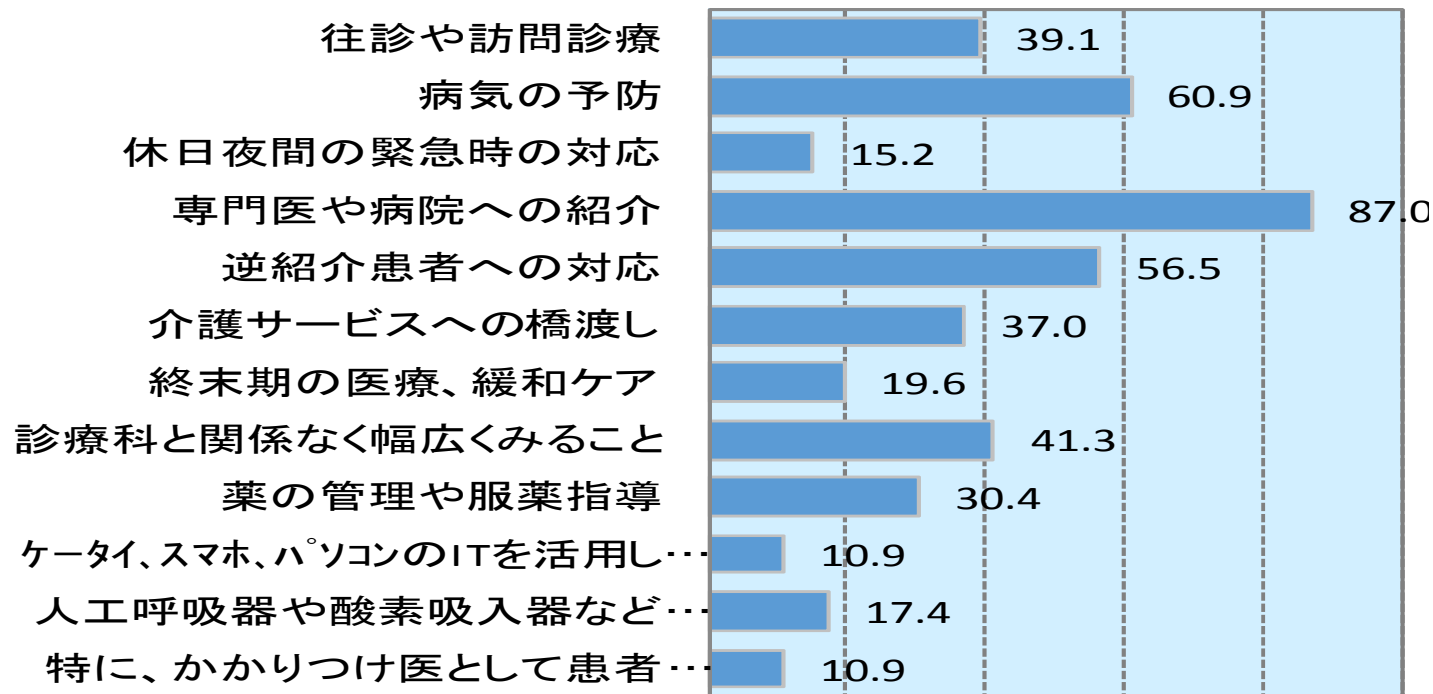


よく紹介する医療機関は、

- ①市外県内の医療機関(73.9%)
- ②市内二次病院(58.7%)
- ③市内三次病院(近大)(54.3%)

アンケート集計結果 【かかりつけ医に関する調査】

【問6(1)かかりつけ医として提供している医療・サービス(複数回答)】



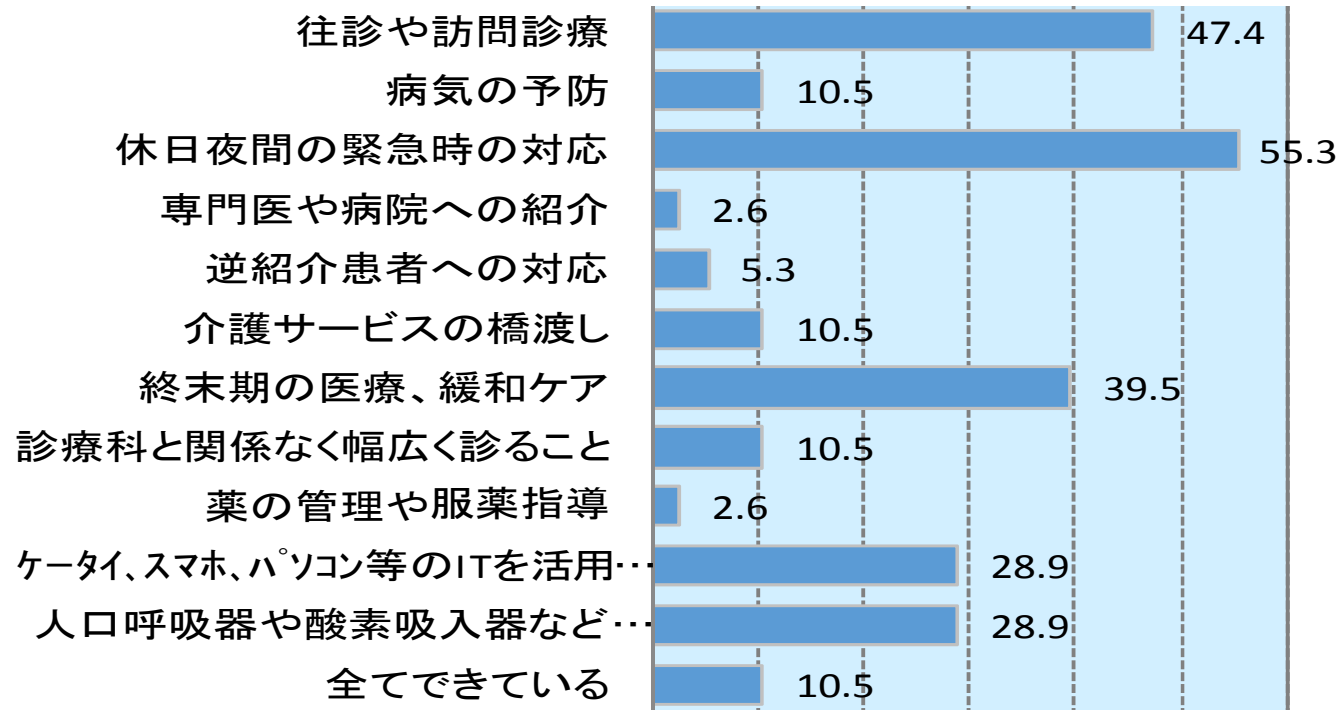
かかりつけ医としての提供しているサービスは、

- ①専門医や病院への紹介 (87.0%)
- ②病気の予防(60.9%)
- ③逆紹介患者の対応(56.5%)の順で多かった。

※市民アンケート問16の「かかりつけ医に望む医療サービス」では、①「専門医や病院への紹介」②「休日」夜間の緊急時の対応」③「病気の予防」の順となった。10

アンケート集計結果 【かかりつけ医に関する調査】

【問6(2)かかりつけ医として提供できていない医療・サービス(複数回答)】



かかりつけ医として提供できていないサービスとしては、

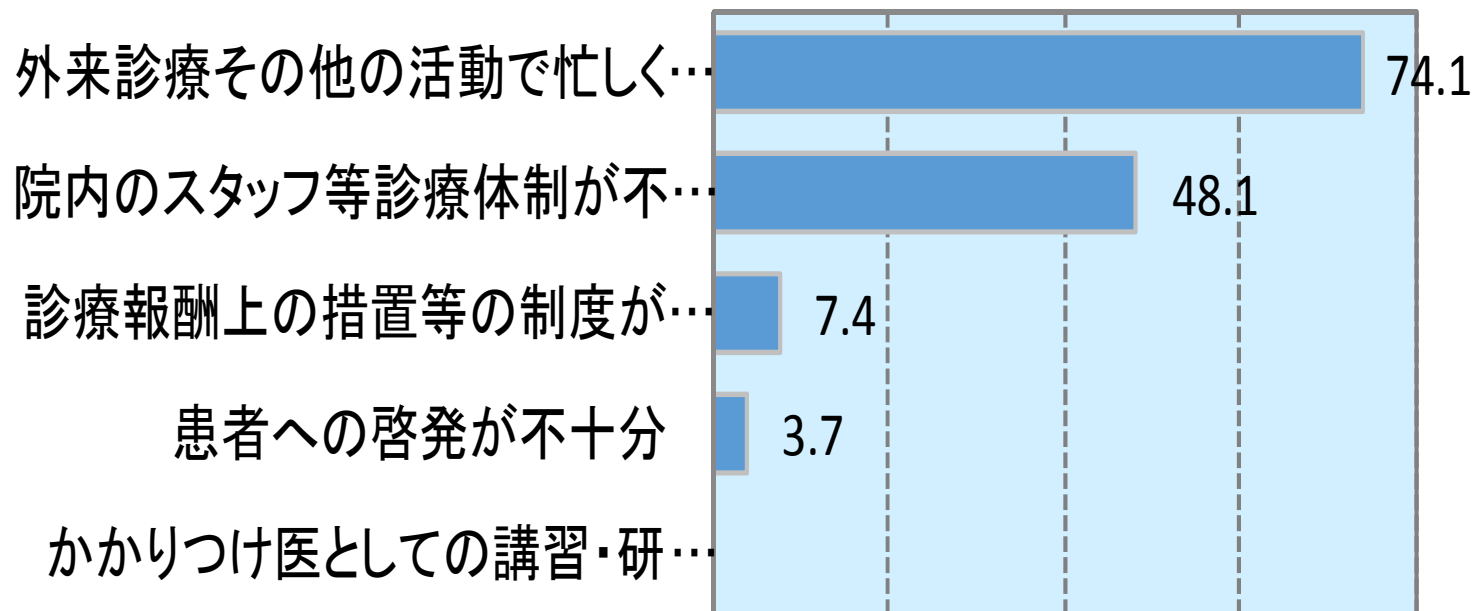
- ①休日夜間の緊急対応(55.3%)
- ②往診・訪問診療(47.4%)
- ③終末期医療・緩和ケア(39.5%)

となっており、在宅医療に係る医療・サービスの提供体制が未整備ではないかと思われる。

アンケート集計結果 【かかりつけ医に関する調査】

【問6(3)提供できていない理由(複数回答)】

なぜ提供したくてもできないと思いますか。



提供できない理由としては、

①外来診療その他の活動で忙しく余裕がない(74.1%)

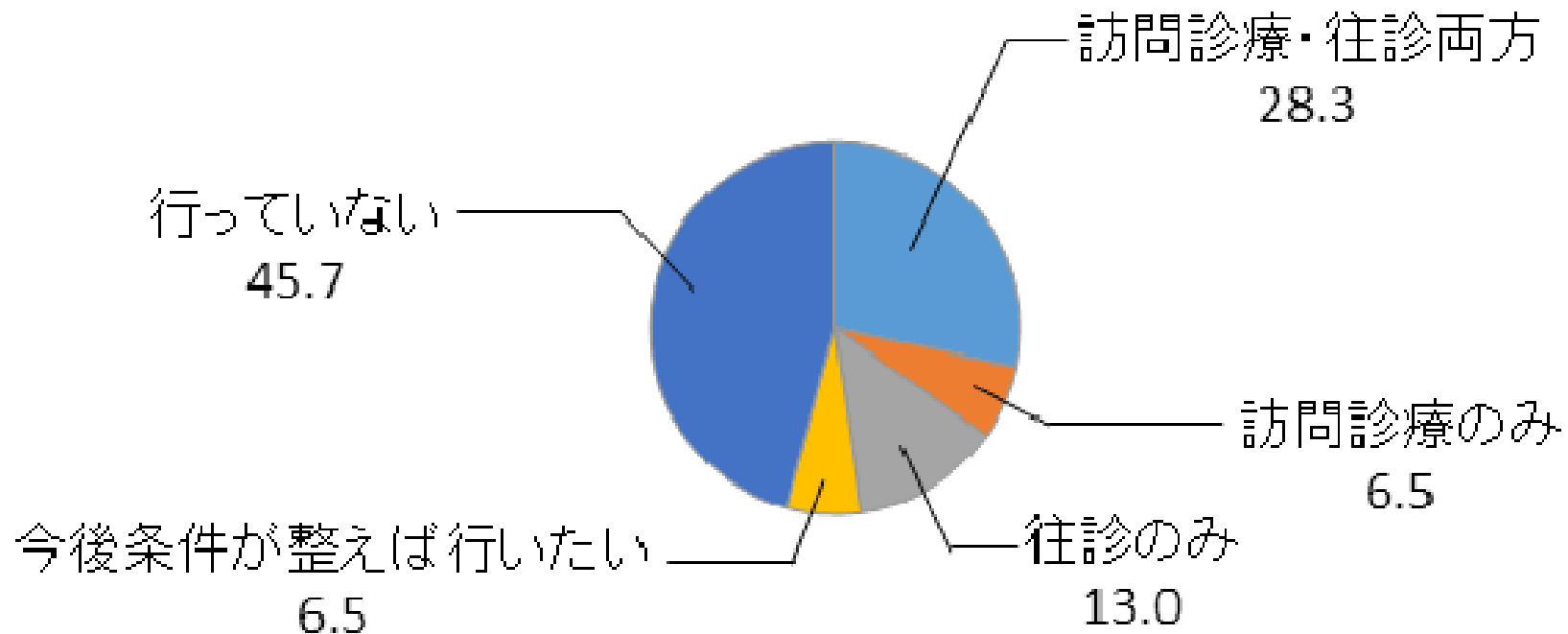
②院内のスタッフ等診療体制が不十分(48.1%)

で理由のほとんどを占めた。

アンケート集計結果 【在宅医療に関する調査】

【問7(1)訪問診療・往診の実施】

訪問診療や往診を行っていますか。

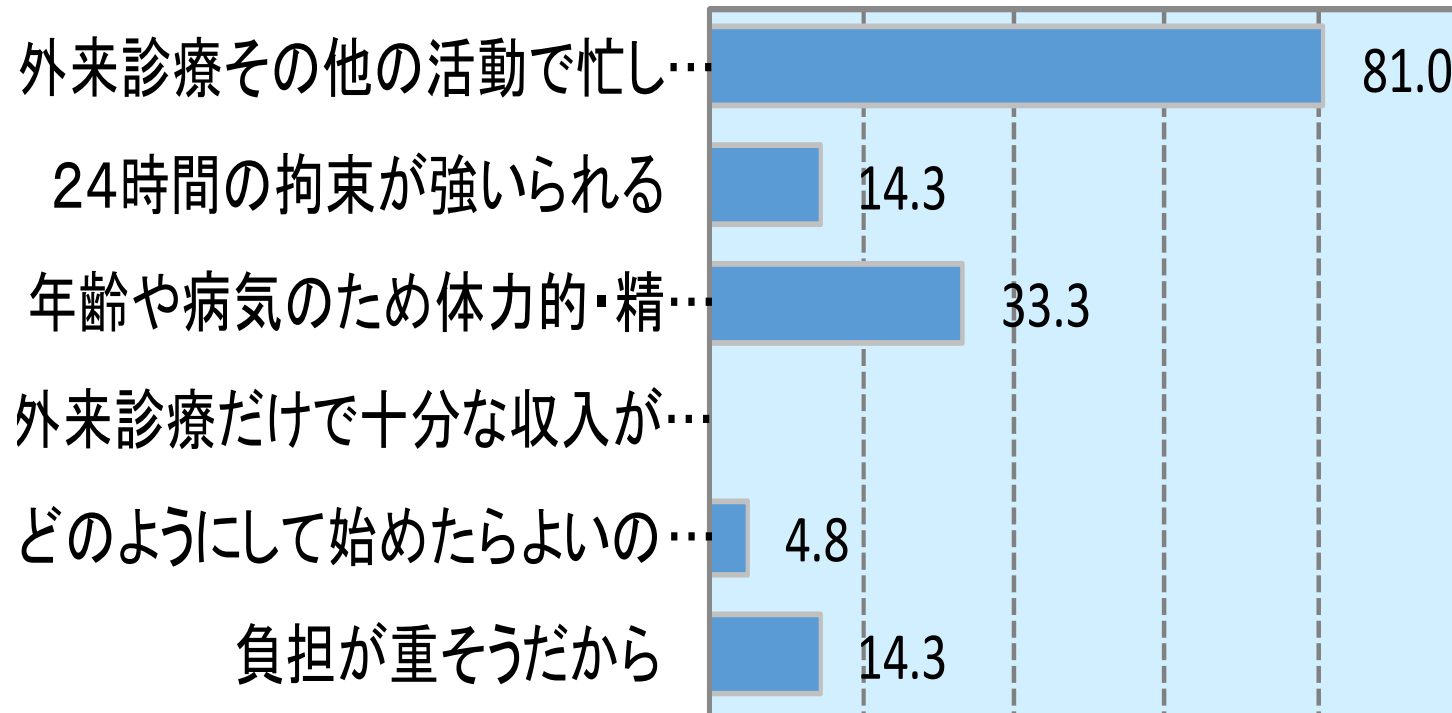


訪問診療・往診については、その両方(28.3%)とどちらかを行っている(19.5%)とで47.8%、どちらも行ってない(52.2%)とほぼ半々であった。

また、「今後条件が整えば行いたい」は6.5%と極めて少なかった³

アンケート集計結果 【在宅医療に関する調査】

【問7(2)訪問診療・往診を行っていない理由(複数回答)】



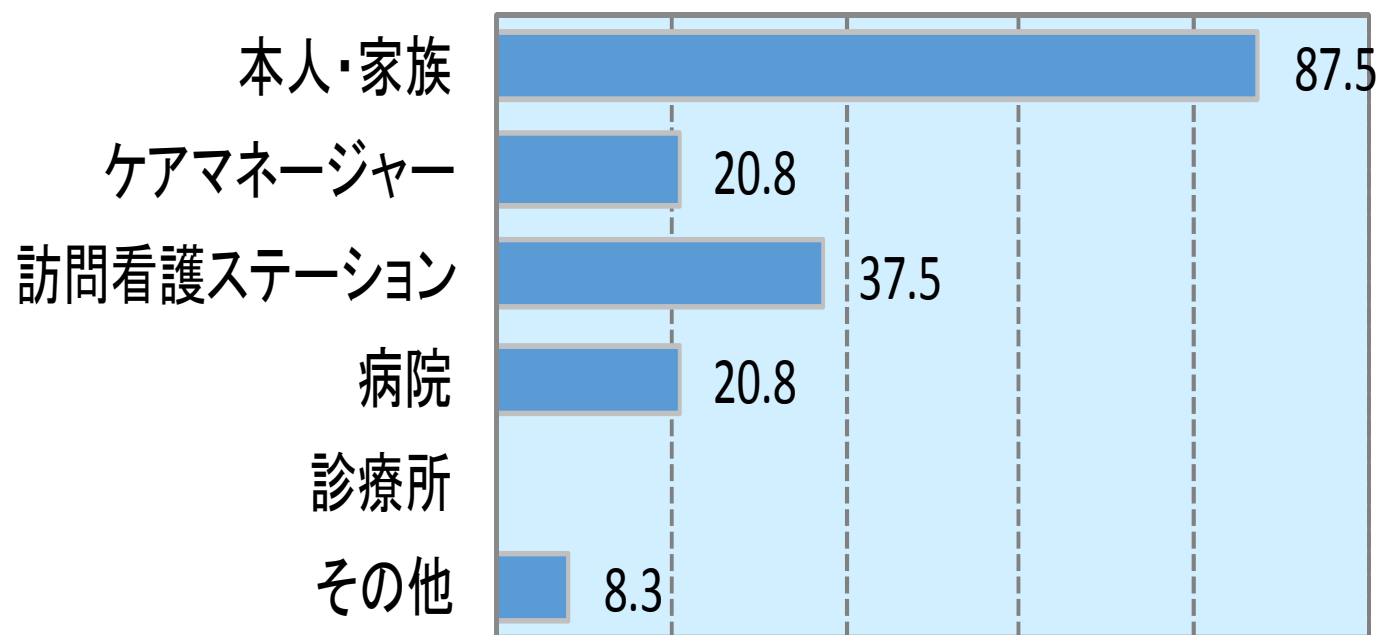
訪問診療・往診を行っていない理由としては、

- ①外来診療その他の活動で忙しく余裕がない(81.0%)
 - ②年齢や病気のため体力的精神的に難しい(33.3%)
- の順が多かった。

アンケート集計結果 【在宅医療に関する調査】

【問7(3)訪問診療・往診の依頼元(複数回答)】

訪問診療や往診を行っている患者について、依頼元はどこですか。



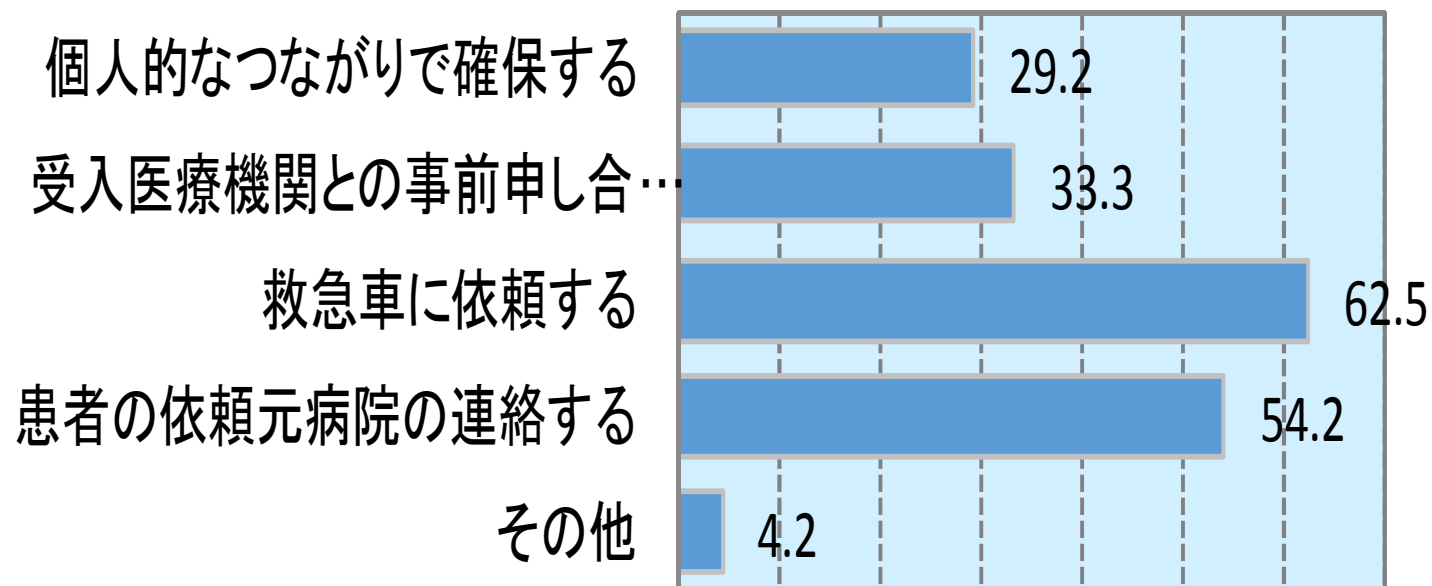
訪問診療・往診患者の依頼元は、

- ①本人家族(87.5%)が9割方を占め、続いて、
 - ②訪問看護ステーション(37.5%)
 - ③ケアマネージャーと病院(20.8%)
- の順となっている。

アンケート集計結果 【在宅医療に関する調査】

【問7(4)在宅患者の受入れ病院確保(複数回答)】

訪問診療や往診を行っている患者の状態が急変したときに受け入れてくれる医療機関をどのように確保していますか。

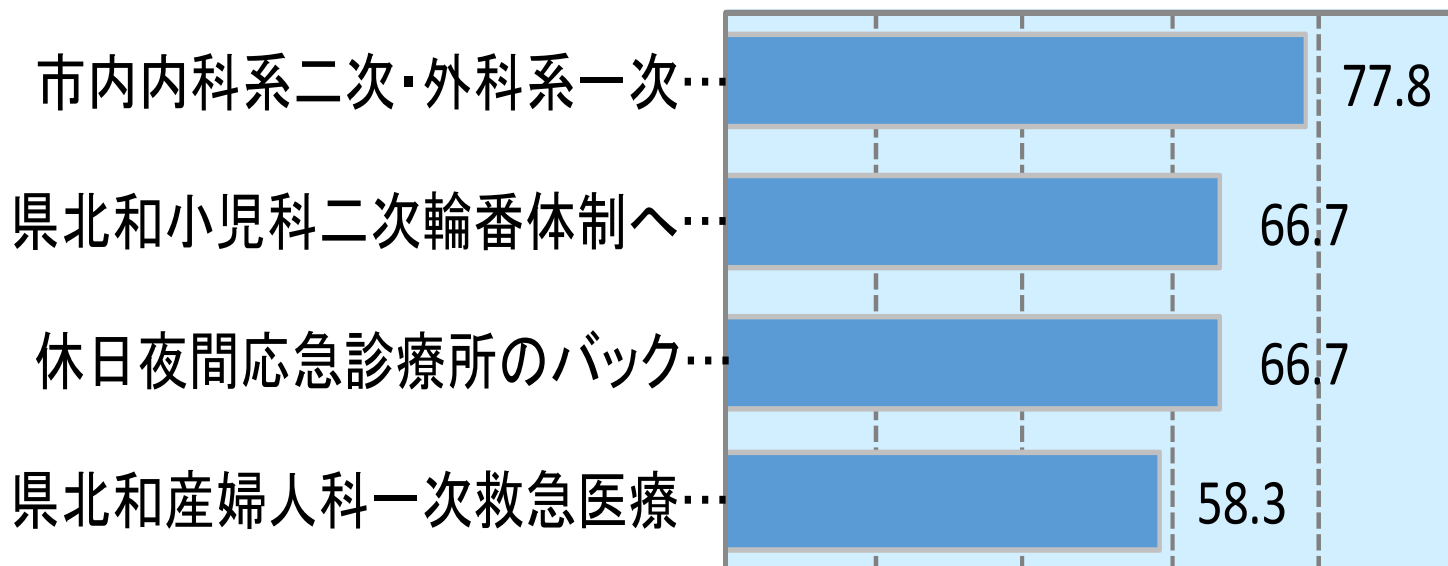


患者急変時の受入機関の確保については、「救急車に依頼する」(62.5%)と一番多く、次に「依頼元病院に連絡する」(54.2%)などが多くなっており、在宅患者の緊急時の受入病床の確保の厳しい現状が伺える。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(1)市立病院の救急に対する取組みで特に期待することはありますか(複数回答)】



市立病院の救急に対する取組みについては、各選択肢とも、選択数が多く市内で不足する二次救急、小児科二次医療への市立病院の取組みの期待感が高いことが伺える。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(2) 医療講演会の講師として参加しようと思いますか】

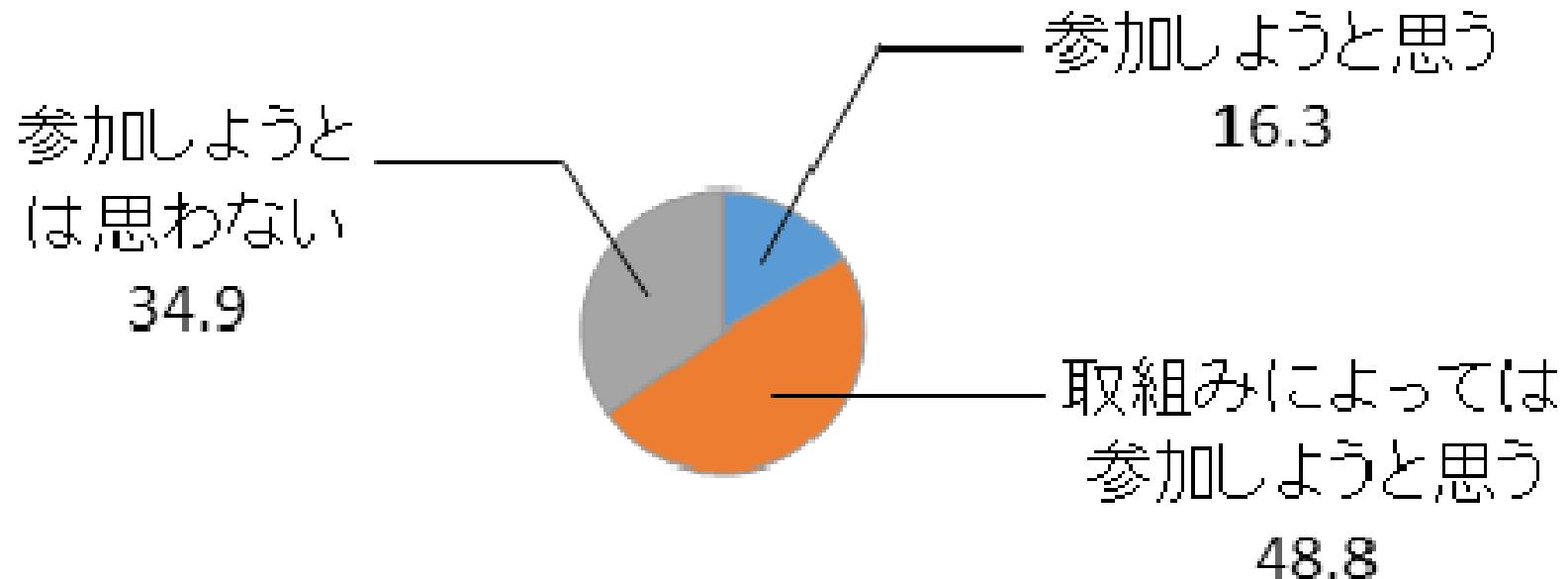


- ・「時間的な余裕がない」などの理由から、「参加しようとは思わない」が50.0%を占めた。
- ・一方で、患者や市民への啓発は、疾病予防の観点から重要との認識から、医療講演会の「テーマによっては参加しようと思う」も50.0%であった。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(3)地域連携パスや退院支援チーム等の取組に参加しようと思いますか】

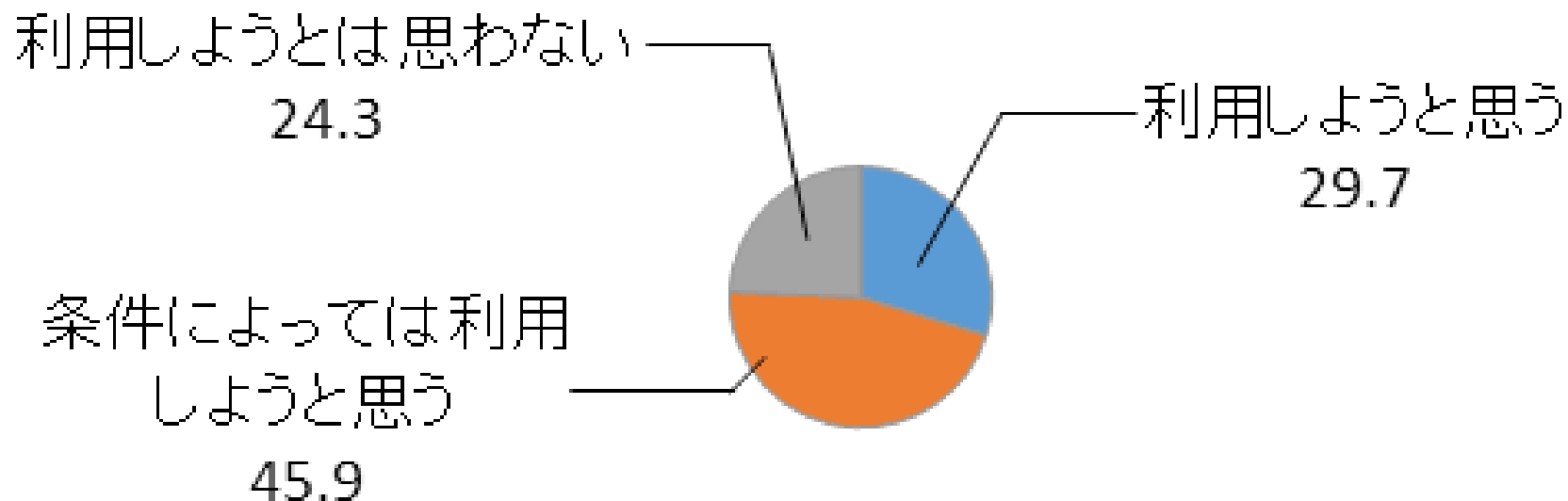


「参加しようと思う」(16.3%)と「取組みによっては参加しようと思う」(48.8%)の合計が65.1%と高く、患者ニーズや地域での医療連携の必要性に鑑み、市立病院との医療連携への参加を前向きに考えていただいている診療所が多いことが伺える。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(4)在宅患者の増悪時の入院加療用病床を利用しようと思いますか】

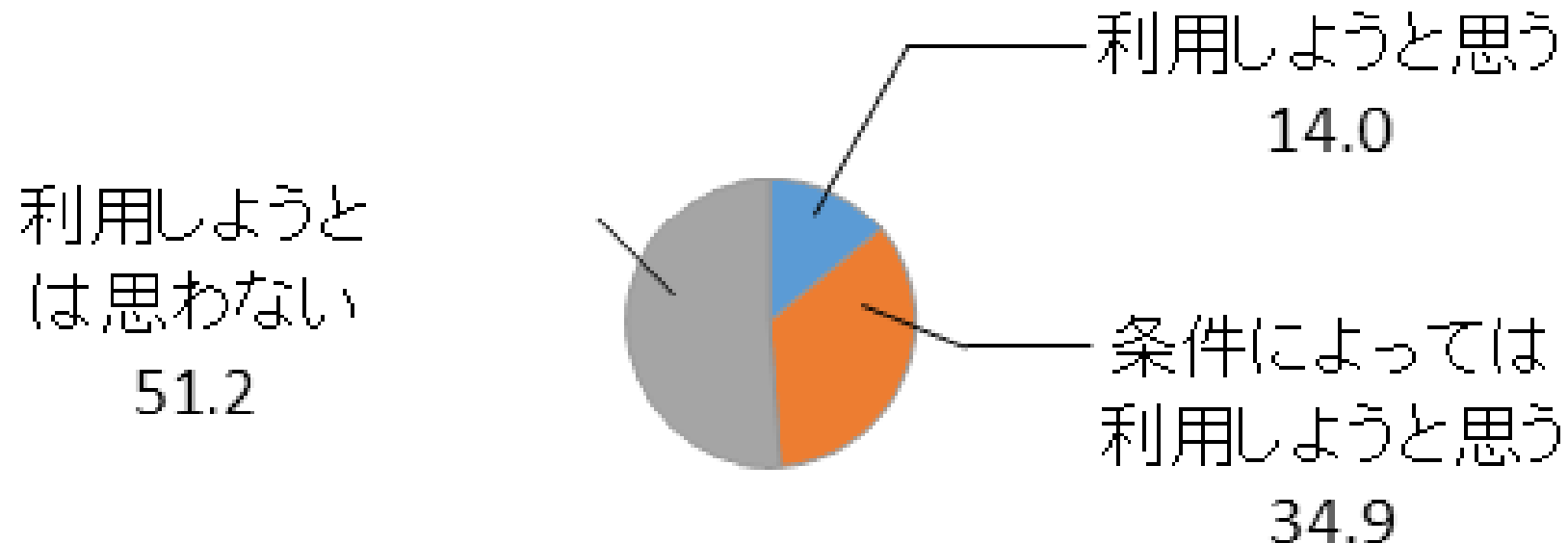


「利用しようと思う」(29.7%)と「条件によっては利用しようと思う」(45.9%)の合計が75.6%と高く、本アンケート問7(4)の在宅患者の受入病院の確保の回答結果からも伺えるように、緊急の受入病床の確保の厳しい現状が反映されているのではと推測する。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(5) 開放型病床を利用しようと思いますか】

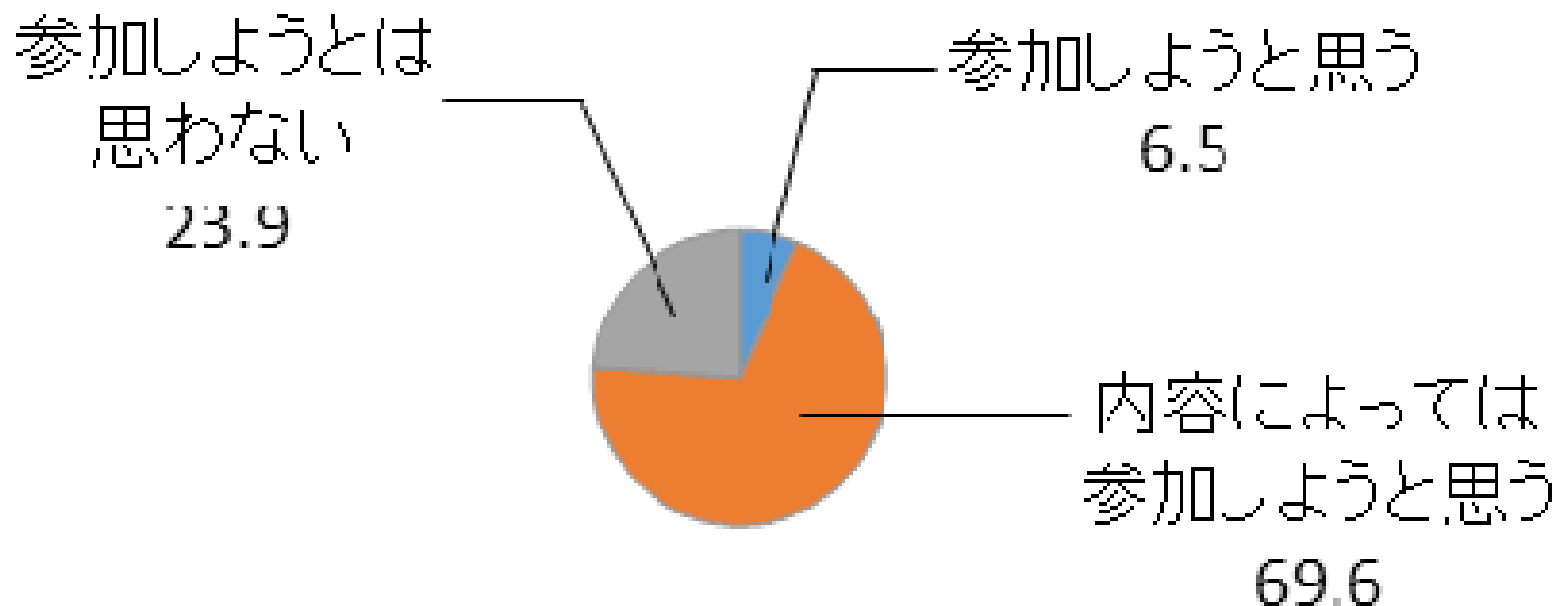


「利用しようと思う」(14.0%)と「条件によっては利用しようと思う」(34.9%)の合計が48.9%で、「利用しようとは思わない」(51.2%)と、利用するか否かは両者半々の状況となっている。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(6)各種医療教育プログラムに参加しようと思いませんか】

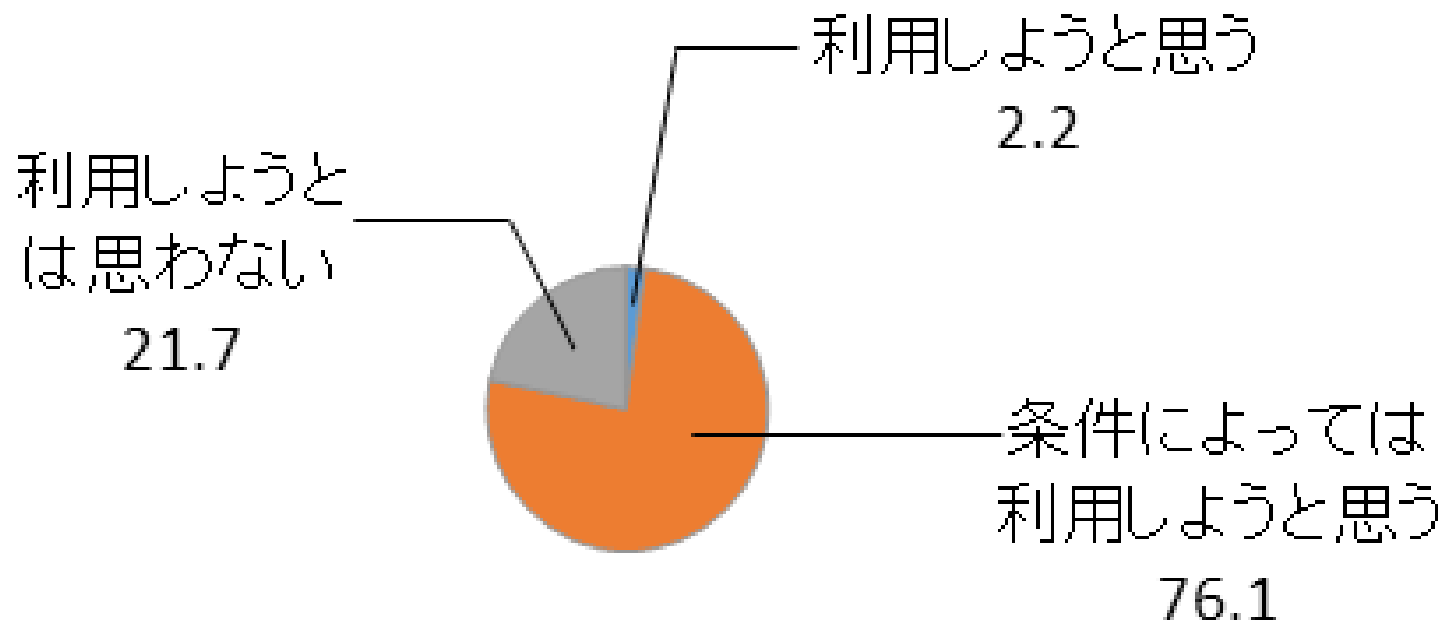


「参加しようと思う」(6.5%)と「内容によっては参加しようと思う」(69.6%)の合計が76.1%と高く、「学会や医師会等主催のプログラム内容と重複しないようなら参加したい」などの理由から、診療所の先生方の、レベルアップを目指したいとの意向が反映しているといえる。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(7) 合同症例検討会や定期勉強会に参加しようと思いませんか】

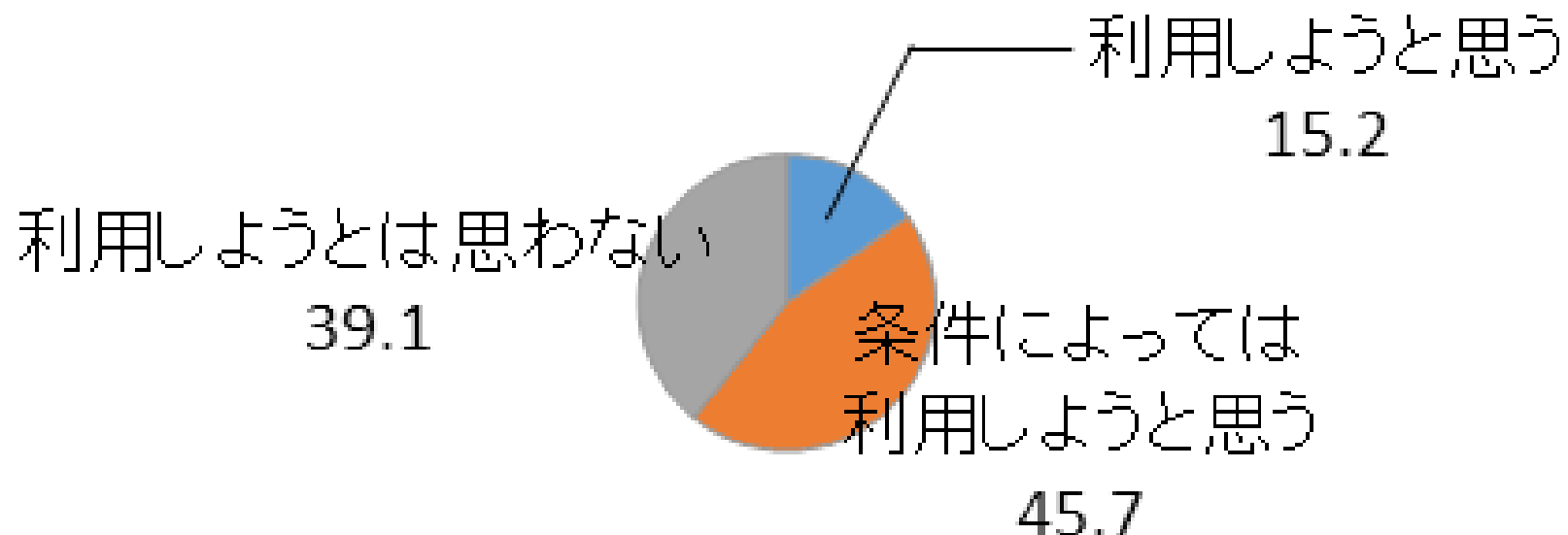


「利用しようと思う」(2.2%)と「条件によっては利用しようと思う」(76.1%)の合計が78.3%と高く、問8(6)の各種医療教育プログラム同様、診療所の先生方の、レベルアップを目指したいとの意向が反映しているといえる。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(8) 医療機器のオープン利用を活用しようと思いませんか】

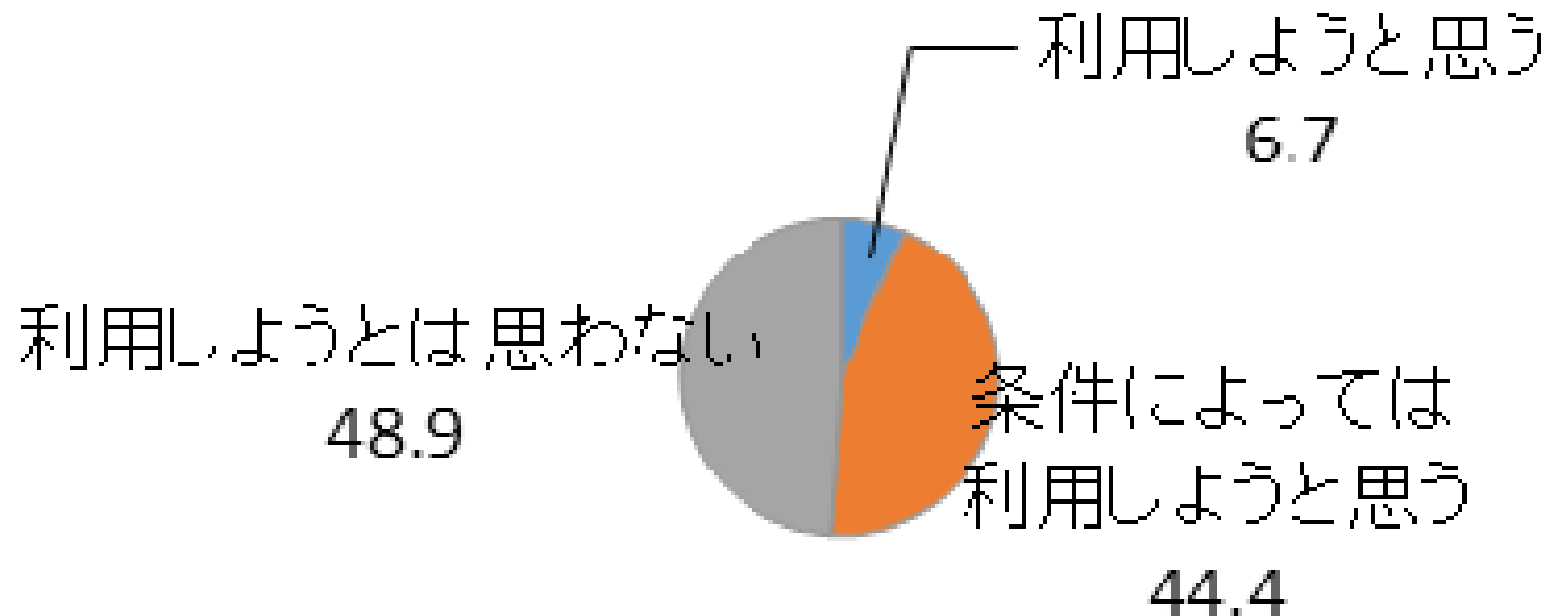


「利用しようと思う」(15.2%)と「条件によっては利用しようと思う」(45.7%)の合計が60.9%と、医療機器のオープン利用を活用しようと思う診療所が6割を占める一方で、既に連携先があるなどの理由から「利用しようとは思わない」が39.1%を占めている。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(9) 血液検査のオープン利用を活用しようと思いませんか】

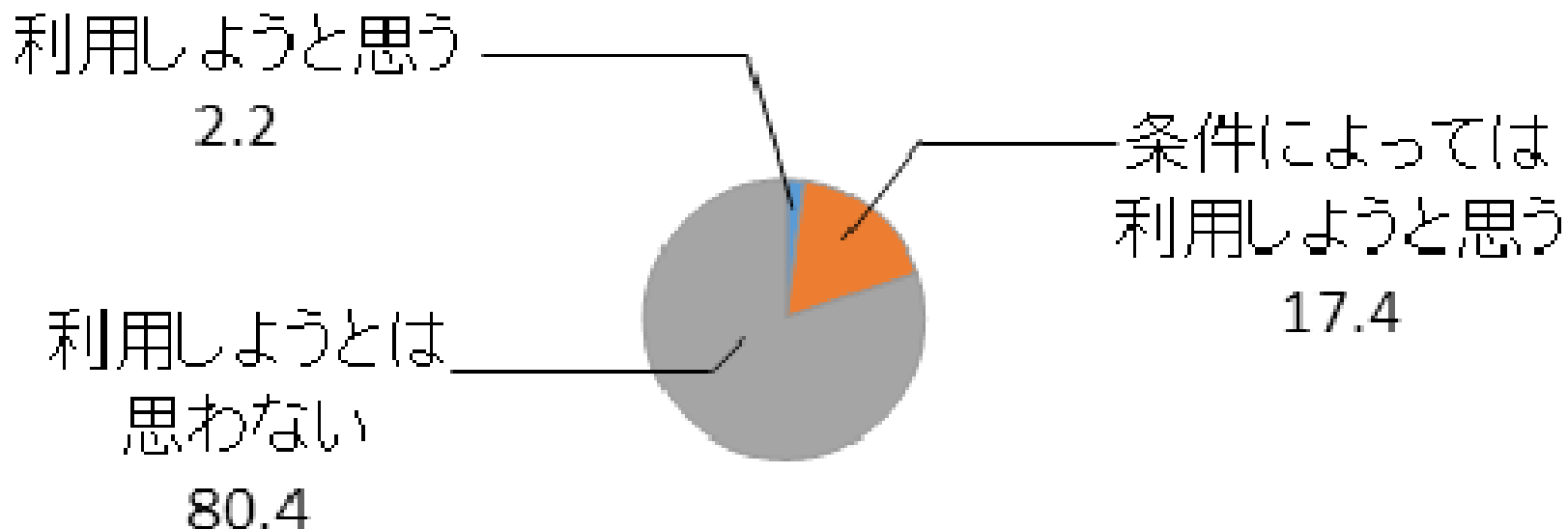


「利用しようと思う」(6.7%)と「条件によっては利用しようと思う」(44.4%)の合計が51.1%、一方で、既存の検査機関のサービスで満足しているなどの意見も多く、「利用しようとは思わない」が48.9と、血液検査のオープン利用については、利用するか否かは半々という状況である。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(10)手術室のオープン利用を活用しようと思いますか】

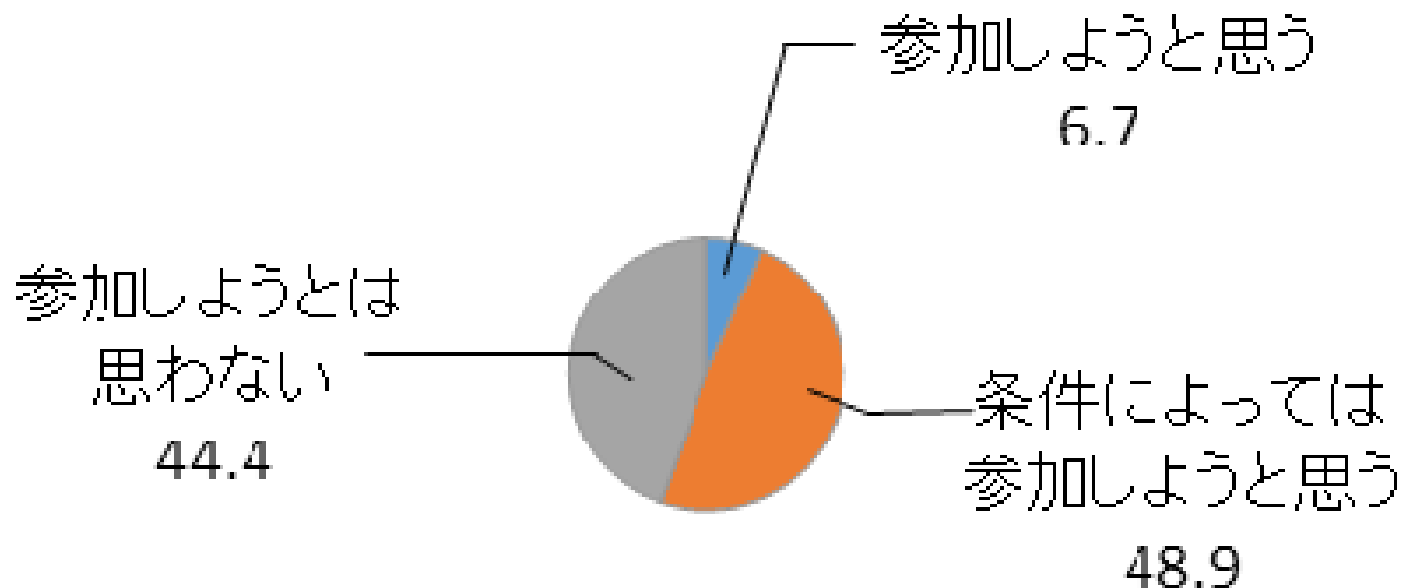


「利用しようと思う」(2.2%)と「条件によっては利用しようと思う」(17.4%)の合計が19.6%と、医療機器や血液検査のオープン利用とは違って、低く、「利用しようとは思わない」が80.4%となった。本アンケート回答者のうち、外科手術を行わない内科医が58.7%を占めていることも影響していると思われる。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(11)診療情報のネットワーク化に参加しようと思いませんか】



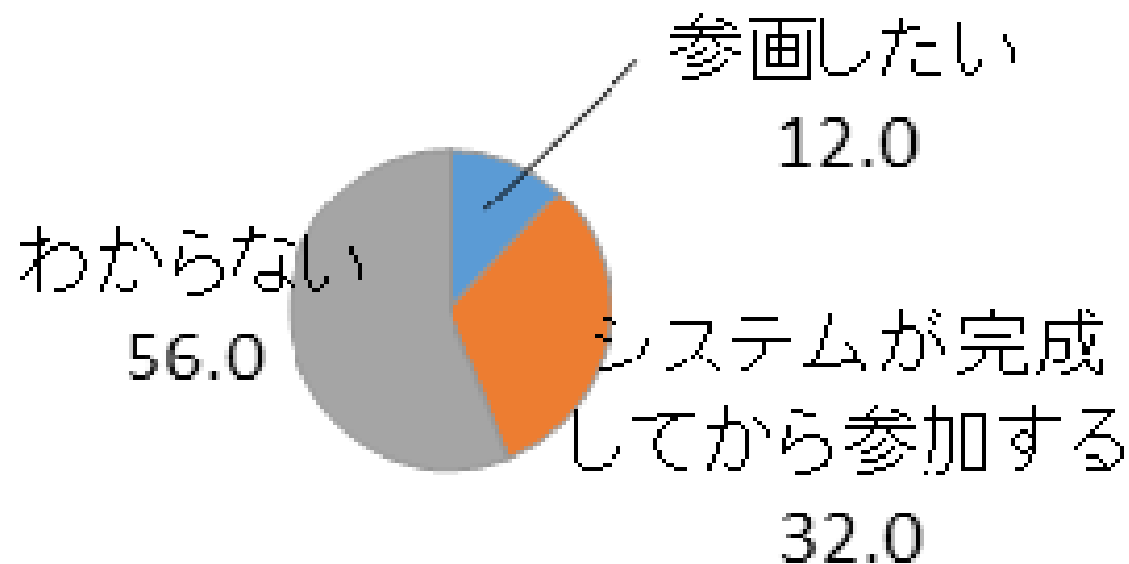
- ・「参加しようと思う」(6.7%)と「条件によっては参加しようと思う」(48.9%)の合計が55.6%と、「利用しようと思わない」の44.4%を若干上回る結果となった。
- ・また、個人情報のセキュリティの安全性を問題視する意見が多く見受けられた。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(12) 診療情報ネットワーク化に検討段階から参画しようと思いませんか】

(11)で「1：参加しようと思う」「2：条件によっては参加しようと思う」と回答された方にお聞きします。患者の診療情報のデータ化、ネットワーク化の仕組みを検討する段階から参画しようと思いませんか。



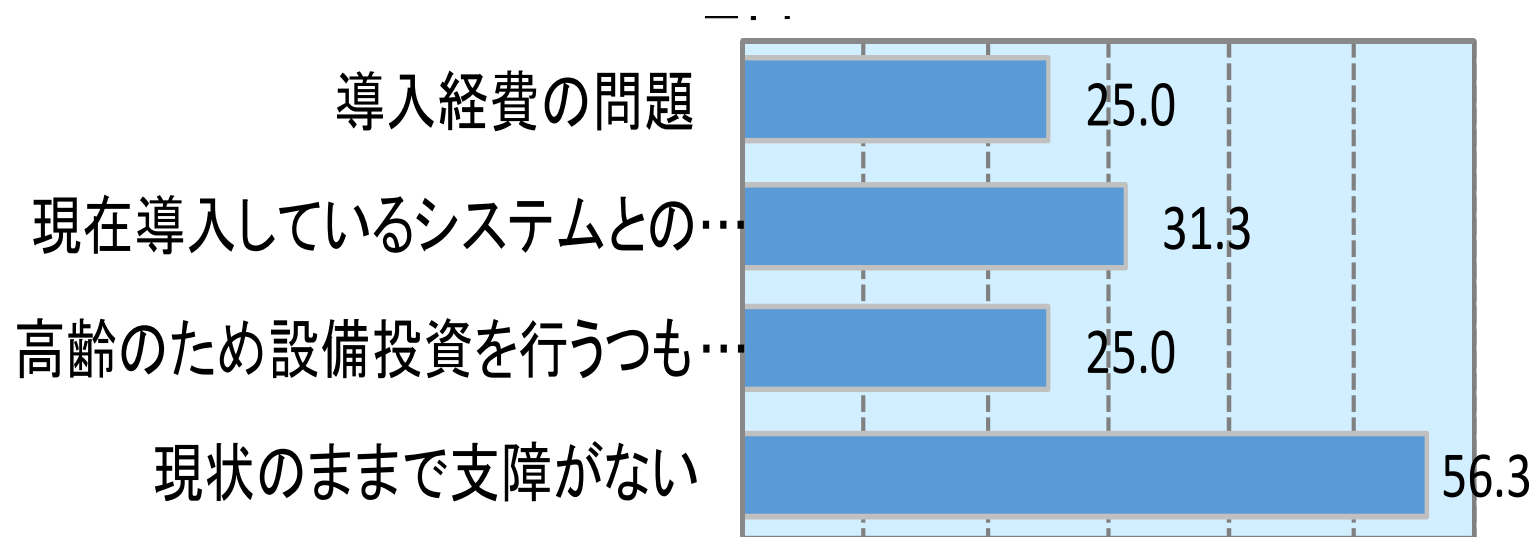
「参画したい」が12.0%に比べて、「システムが完成してから参加する」が32.0%と、検討段階からというよりも完成してからの参加が多かった。

アンケート集計結果

【市立病院の地域医療支援の取組みに関する調査】

【問8(13) 診療情報ネットワーク化に参加しようと思わない理由(複数回答)】

(11)で「3 : 参加しようとは思わない」と回答された方にお聞きします。なぜ、患者の診療情報のデータ化、ネットワーク化に参加しようと思わないのですか。

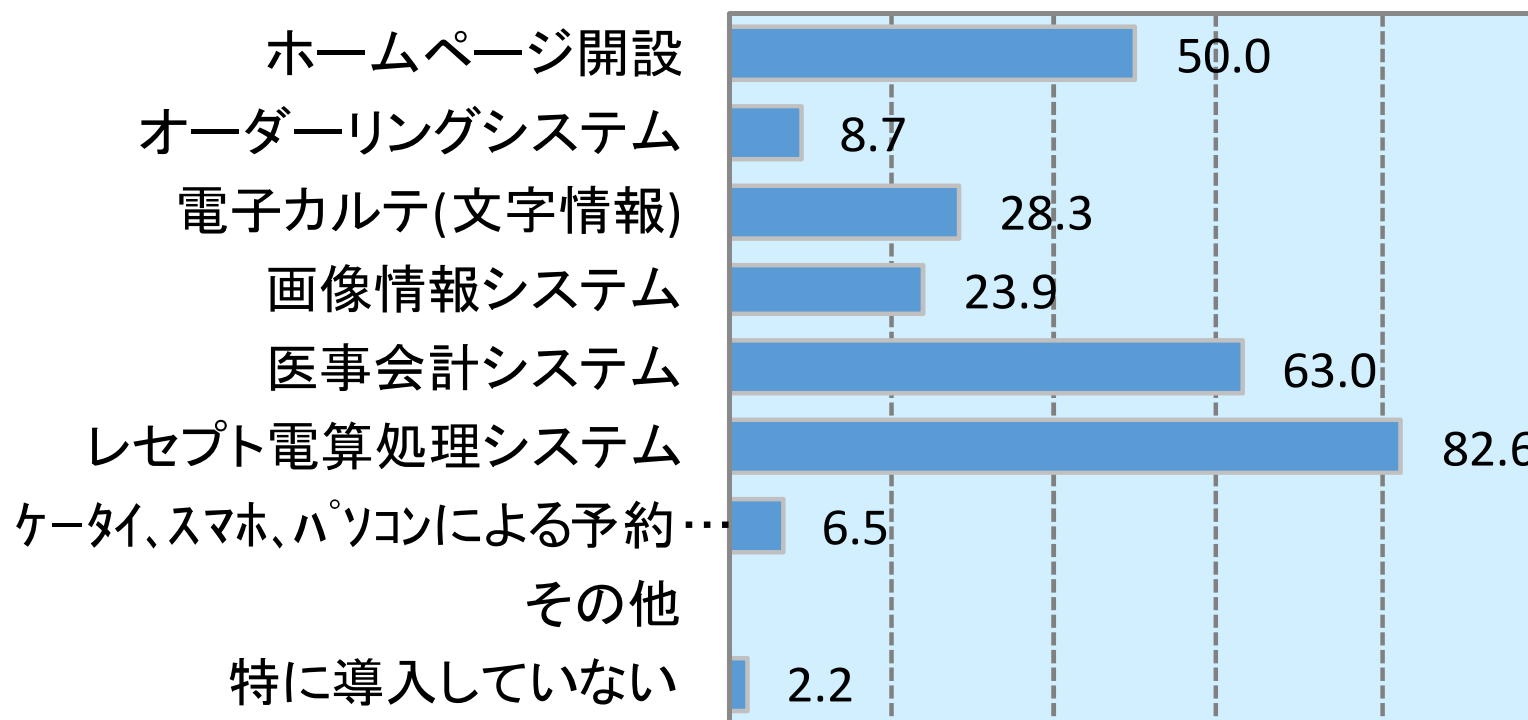


参加しようと思わない理由としては、「現状のままで支障がない」(56.3%)が最も高く、次に、「現在導入しているシステムとの整合性の問題」(31.3%)で、続いて、「導入経費の問題」「高額のため設備投資を行うつもりはない」(25.0%)となっており、コスト面や既存システムとの整合性の問題も支障になっていると言える。

アンケート集計結果

【医療情報の電子化の状況に関する調査】

【問9 医療情報の電子化について、どのようなシステムを導入していますか(複数回答)】



診療情報の電子化の進み具合は、レセプト電算処理システム(82.6%)、医事会計システム(63.0%)、ホームページ開設(50.0%)はかなり普及が進んでいるが、電子カルテや画像情報システムについては、25%前後の普及率との結果になった。